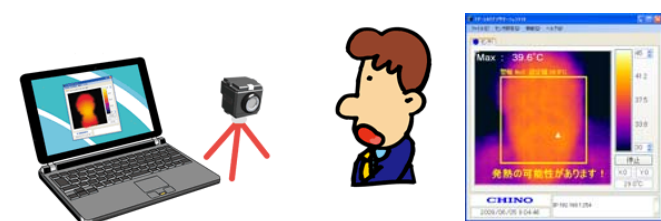
INST. No. TPL-02-19A　**CHINO**

小形熱画像センサ TP-L シリーズ 体表面温度のチェック方法

このたびは小形熱画像センサをお買い上げ頂きありがとうございます。本マニュアルでは小形熱画像センサを活用して、人の体表面温度をチェックする方法について解説しています。体表面を熱画像で観察する事で、発熱者を非接触で簡易的にチェックする事ができます。本マニュアルでは体表面の温度観察と簡易な判定設定の流れを説明します。本製品の詳しい機能説明は付属のCD内の取扱説明書をご覧ください。

⚠ **小形熱画像センサ TP-L シリーズは、表面温度を熱画像表示する工業用センサです。体温計ではございません。**

株式会社チノー

■ご使用になる前に

本書は体表面の熱画像観察について解説しています。本製品をご利用頂くために必要な、安全上のご注意を始めとした詳しい説明は、製品に付属の取扱説明書（ソフトウェア CD 内の PDF ファイル）を事前にご覧ください。

CDに付属の取扱説明書（PDFファイル）を読むには、Adobe Reader が必要です。

■ご利用までの準備

本製品を利用するためには以下の準備が必要です。詳細については付属の取扱説明書またはクイックマニュアルを参照ください。

アプリケーションソフトをご利用のパソコンにインストールします
■アプリケーションソフトのインストール

⚠ 熱画像センサと通信を行うために、パソコンのLANの設定を行います。既にネットワークに接続されている場合には、ネットワークから外してください

⬇

付属の専用LANケーブルで熱画像センサとパソコンを1対1で接続します
■熱画像センサのLAN設定

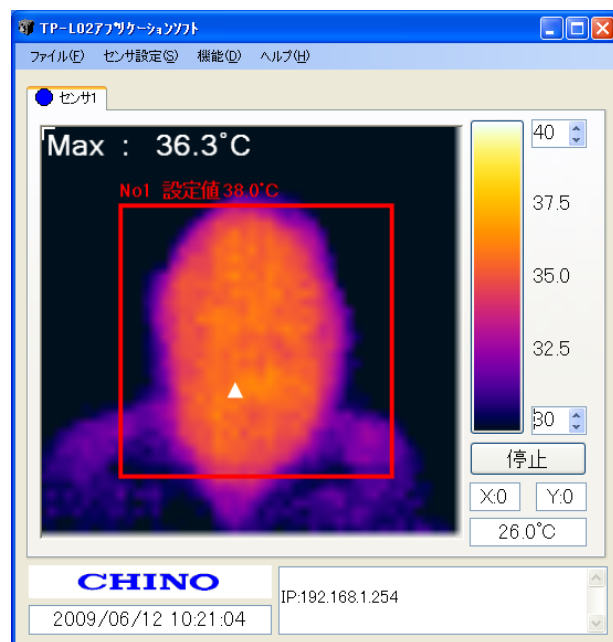
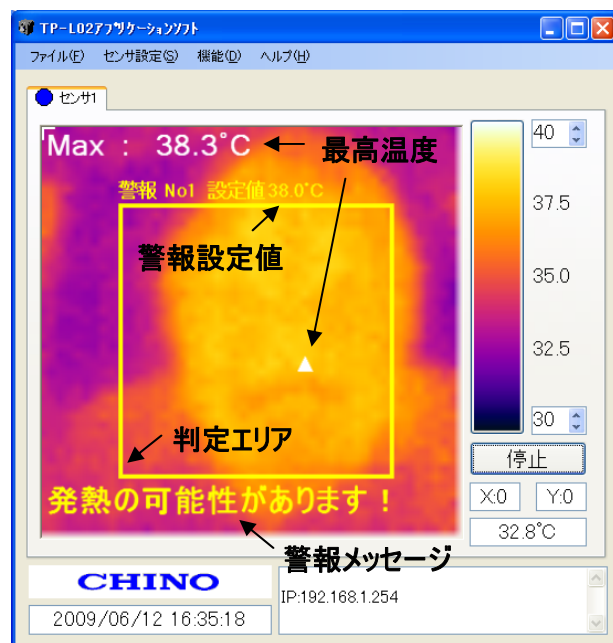
⬇

初期設定のためアプリケーションソフトを起動します
■アプリケーションソフトの初期設定

⬇

ご利用いただけます

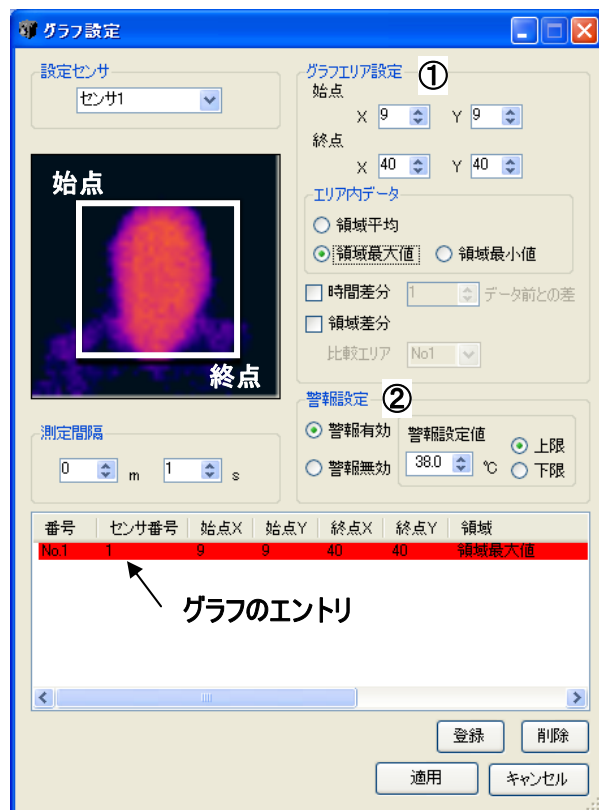
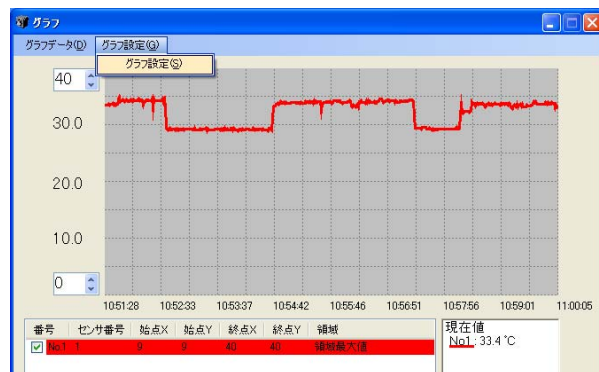
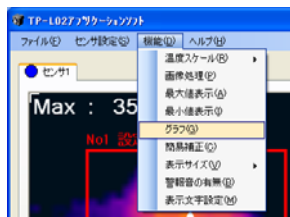
■体表面温度チェックと温度判定

体表面の温度を簡易的にチェックする方法として、顔面を TP-L で観測し、設定した値以上を示す部位が無いか観察します。観察エリアの中で最も高い温度を示した場所を△マークで、その温度を熱画像画面左上に常時表示します。またソフトウェアの警報機能を活用する事で、設定以上の温度を観察した場合、画面上にメッセージを表示して注意を促す事ができます。

【通常時】

【警報発生時】

⚠ **本製品は表面温度を測定して画像表示する工業用センサです。体温の測定には専用の機器をご利用下さい。**

⚠ **本機で測定している表面温度は、周囲の温度や空気の流れなど環境によって影響を受けやすいため、測定前には室内などの一定環境に馴染んだ状態で測定して下さい。特に冬季など外気温が低い季節は大きく影響を受ける場合があります。なお外気などの影響を受け難く、比較的安定して測定できるのは、鼻で呼吸した後の口内（内壁）です。**

■警報温度を設定するには【温度判定機能】

警報を発する警報温度を設定するには、メニューの「機能」>「グラフ」からグラフを表示し、グラフメニューの「グラフ設定」からグラフ設定画面を表示して行います。

【①グラフエリア設定】判定対象とする判定エリアを規定します。画面左上を原点 X:0/Y:0 として規定したい範囲の始点（左上）と終点（右下）の座標を設定します。グラフエリアは画面で矩形の枠で示されます。またエリア内データにおいて「領域最大値」を選択します。

【②警報設定】警報温度を設定します。「警報有効」を選択し、「警報設定値」に警報を出したい温度（0.5℃ステップ）、判定を「上限」に設定します。

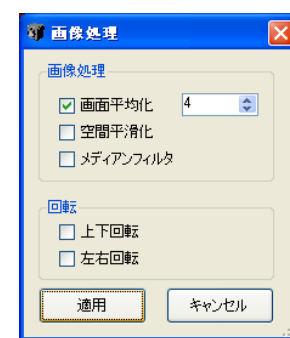
以上で、設定した判定エリア内で設定値以上の温度が観測されると画面にて警報が発生します。

設定が完了したら登録ボタンでグラフを登録します。すでに登録されたエントリを修正するには、エントリを選択した状態で登録ボタンを押して変更します。

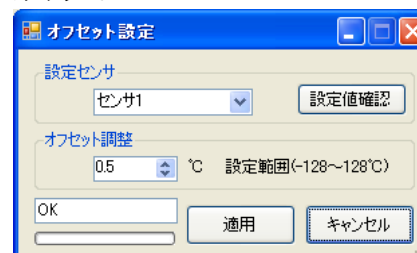
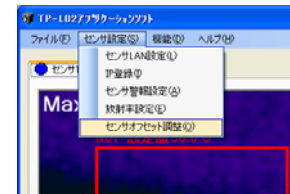
⚠ **グラフは最大 8 つまで登録できますが、温度異常の警報メッセージを表示できるのは No.1 に設定したグラフのみです。**

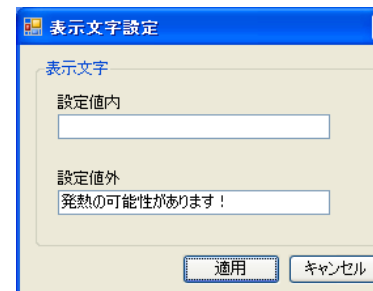
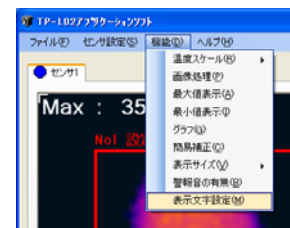
■測定値を安定させるには【画面平均化】

測定値のふらつきを抑え、安定させるには、メニューの「機能」>「画像処理」で平均処理の設定を行います。「画像処理」で「画面平均化」を選択し、平均する回数を 2 から 10 回の間で設定します。

平均する回数を増やすと測定値は安定しますが、時間応答が遅くなるので、測定に時間が必要となります。

■測定値を補正するには【オフセット機能】

測定値を任意にシフトさせて補正する事ができます。メニューの「センサ設定」>「センサオフセット調整」からオフセット設定画面で行います。「オフセット調整」でオフセットさせたい温度値を 0.1℃ステップで設定します。

画面内の全ての測定値が設定した値だけオフセットします。

■警報メッセージを修正するには【コメント機能】

警報メッセージは任意の文字を設定する事ができます。メニューの「機能」>「表示文字設定」から表示文字設定画面で行います。「表示文字」の「設定値内」には警報が発生していない間「設定値外」には警報が発生している間に表示するメッセージをそれぞれ 15 文字まで設定できます。

⚠ 体表面温度チェッカー用の小形熱画像センサ本体は、37℃（周囲温度 25℃）で校正しております。
製品出荷基準は中心 3×3 画素の平均値で 37℃±0.5℃です。
なお精度定格は参考データとなります。